

新聞と わくわくメニュー

三春町 橋本 翔君
要田小4年

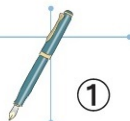
四年生になって宿題のやり方が変わりました。先生から自主学習ノートに「ばっちりメニュー」と「わくわくメニュー」をやるように言われたのです。ばっちりメニューとは、その日学習したことや、計算や漢字をすることです。わくわくメニューとは、自分のきょう味をもったことや、もっと調べたいことを書いたり、絵をはったりすることです。

ぼくは、「こんな宿題めんどろくさいなあ」と思いました。第一、わくわくメニューは何をやるべきなのか全く分かりませんでした。それでお母さんに何をすればいいか相談しました。

お母さんは、新聞の四コマまんが「コンちゃん」を読んで、「『春眠暁を覚えず』って書いてあるけど、意味分かる？」と聞いてきました。ぼくが

第7回「私と新聞」親子作文コンクール

入賞作品紹介



小学生の部親子賞 最優秀賞

つてくれました。次の日から、新聞受けから持ってきた新聞を家族で一番に広げて、わくわくメニューのネタさがしをするようになりました。ぼくの目にとまる記事は、乗り物、宇宙、事件・事故などです。それも写真や図があったり、大きな見出しがあるページと目にとまります。ある日先生が事故の話

をしました。ぼくが朝、新聞で見たことを伝えると、先生から「新聞を見るの？ すていね」とほめられて、うれしい気持ちになりました。四月七日から始めたわくわくメニュー。新聞の記事さがしと意味調べも写真や図があったり、大きな見出しがあるページと目にとまります。ある日先生が事故の話

だ。新聞記事が貼られてふっくらした自主学習ノートは、ちょっとした作品のようで、趣さえ感じられる。切り取られた記事を確認するためにノートを拝見。そこには先生のコメントが赤字で書かれていて、先生と息子の間に入り取りが生まれていた。そのやり取りの中心にあるのは新聞記事だ。新聞を広げながら、就寝する息子に声をかけた。「スマップ、紅白に出ないんだって。」「そうそう、新聞に書いてあったね」。新聞から仕入れる情報の早さは、朝刊を朝読む息子の方に軍配が上がる。

息子の自主学習

母 橋本 由香里さん

今日も一日の終わりに新聞を読む。紙面のどこかにボツカリ穴が開いているのは、小学四年生の息子が自主学習をやった証。気になった新聞記事を切り取って、ノートに貼っているのだ。そして記事の中の分からない言葉を一つ選び、意味を調べて書いている。自主学習にそのやり方を勧めたのは私だが、それでノートページ分を埋めることもできるとガッテンし

たのか、指図されなくて自分一人で取り組むようになった。辞書でひく言葉は毎日一つだけだが、四年生に進級してから今日まで、調べた言葉の数はざっと二百七十を超えても到底できない数だ。継続は力なり。調べた言葉の数々が、「塵も積もれば山となる」「知恵な読者は、明日もせっせと探すことだろう。」

「分らない」と答えるのと、「じゃあ四コマまんがをノートにはって、言葉の意味を調べて書けばいいんじゃないの」と言